

令和7年 9月の思いやり通信



温暖化対策の格差防げ 太陽光パネルで熱中症予防

*猛暑日の日数に応じた高齢者 10 万人あたりの死亡率を比べると、太陽光パネルの設置数が多い地域は少ない地域に比べ、低くなります（名古屋市立大学・アジア成長研究所）。

*高齢世帯は電気代の節約意識から冷房を控えがちとの調査結果があります。

*所得が低いなどの理由で経済・社会的弱者は技術を使えず「適応格差」が生じます。

*世界の自然災害による損失額は異常気象の影響もあって 1980 年以降増え、2024 年は 3200 億ドル（約 50 兆円）に上りました（独ミュンヘン再保険）。

*社会・経済的な弱者ほど大きな損失を被る傾向。

*最大限多くの人々が恩恵を受け、新たな格差を生まぬよう社会・経済の仕組みを踏まえた対策の検討が欠かせません。

（2025 年 8 月 3 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）



洋上風力 事業リスク低減 30年超の海域利用容認

建設費高騰に対応 経産省・国交省

*経済産業省と国土交通省は、洋上風力発電による海域の使用期間を現行の 30 年から延長可能にします。

*これまでは 30 年経過後に事業者を再公募。

*建設コストが膨らむ中、運転期間を延ばして収入を確保しやすくして発電事業者のリスクを低減します。

*これまでは 30 年以内に発電設備の建設から運営、解体まで終える必要がありました。

*建設や解体機関を除いた運営期間は 20 年ほど。

*発電した電力を固定価格で買い取る制度（FIT）の対象期間は 20 年。

*風車の調達コストは、2020～2024 年の 4 年間で 1.5～1.8 倍に増えました。

* エネルギー基本計画は、電源全体に占める風力発電の割合を現在の 1% から 2040 年度に 4~8% まで伸ばす方針。

* 日本は排他的経済水域（EEZ）と領海を合わせた面積が世界 6 位。

* 沖合で強い風が吹くため発電量を確保しやすくなります。

※洋上風力発電 世界の導入量、5年で3倍

* 海上に設置した風車が開店する力で発電。

* 騒音の影響が小さいほか、年間を通じて安定的に風力を確保できます。

* 2024 年までの世界の導入量は 83.2 ギガワット（GW）で、5 年で 3 倍程度に増えました。

* 中国が最も多く、英国など欧州が続きます。

* 日本に大型の風車メーカーはなく輸入に頼っています。

（2025 年 8 月 25 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

